

# 1 3-4. 安満遺跡公園内の雨水貯水の仕組み

## 雨水貯水の仕組み

**7. 雨水貯留の仕組み**

高槻東二号幹線 φ3200mm

導水部

取水放水部

雨水貯留施設 (本体)  
(貯留容量V=20,000 m<sup>3</sup>)

凡例  
流入水 (青い矢印)  
流出水 (赤い矢印)

雨天時に減速機を稼働し貯留施設へ水を送る。  
晴天時にスライドゲート操作による自然排水方式を採用し、維持管理コストを低減。

## 設備のマンホールの蓋

安満遺跡公園内雨水貯留施設 デザインマンホール蓋

弥生人足跡

小区画水田跡

古代米 (赤米)

白米

デザインの意図

一帯には、今から約2500年前にさかのぼる、弥生時代前期の環濠集落・安満(あま)遺跡が広がっています。塚をめぐらせた居住域、水田が営まれた生産域、ムラの人たちが野られた墓域を含む遺跡の中心部は、将来にわたって伝えていく大切な歴史遺産として、国の史跡指定を受けて保存と整備が図られています。

マンホール蓋のデザインは、米作りに欠かせない「水」、発掘調査で見つかった弥生時代の「水田」と「弥生人の足あと」、そして古代米「赤米」と今につながる「白米」の稲穂をモチーフにしています。幾度の洪水被害を乗り越えたくましく生き抜いた、安満ムラの人々に思いを馳せてみてください。

## 1 3-4. 雨水貯水の仕組み

### 1) 導水部

(1) 導水管 3,200Φ・・・道路の下に埋設

### 2) 取水放水部

(1) ゲート・・・3基

(2) 脱臭装置・・・8基

### 3) 雨水貯留設備

$V=2,000 \text{ m}^3 \dots 66\text{m} * 99.7\text{m}$



取水放水部

※ 第二弾として、野見町の高槻城公園内に、貯留量 約 5,500 立方メートルの雨水貯留施設の建設が関連工事を含め、令和2年8月に完成しました。